

第4回津山市総合計画審議会 議事要旨

平成27年6月4日(木) 13:30～

津山市役所 2階 大会議室

1. 開 会

2. 市民憲章唱和

3. 報告事項

(会 長) ○本日は基本構想をご審議いただく。

○次の10年をどのように作っていくかは、なかなか大変で、様々なステークホルダーの方々の、納得をいただけるものでなければならぬだろう。

○一方で、そうは言っても、津山らしい独自性を作っていきたいと考えている。

○今までの審議の中で、津山市民の良識を強く感じている。「未来のために」してほしいという思いが強く出てきたと思っている。

○そういったことも踏まえながら、津山の10年をどう作っていくのかということについて、基本構想を、しっかりご審議いただきたい。

(1) 地区別及び分野別懇談会参加者に対するアンケート調査結果について

(事務局) ○地区別及び分野別懇談会参加者に対するアンケート調査結果の説明

(2) グループインタビュー調査結果について

(事務局) グループインタビュー調査結果の説明

(3) 職員ワークショップの実施結果について

(事務局) 職員ワークショップの実施結果の説明

(委 員) ワークショップで出た具体的な意見も資料として提示いただきたい。

(事務局) 詳細をまとめて後日お届けしたい。

(委 員) どうやったらこれを実現できるかという具体的な方策が示されていない。

(会 長) 今回は調査結果の報告であり、具体策については、今後、基本計画や実施計画で作っていくものと考えている。

今回の第5次総合計画策定の手法の特徴として、できるだけ市民の声を丁寧に聞き、集約していくということがあり、非常にきめ細かく調査されているので、ご理解いただきたい。

(4) 転出入者アンケート調査結果報告について

(事務局) 転出入者アンケート調査結果報告の説明

(委 員) 回答率が低いように感じるが、転出入手続きの窓口では、どのような対応をしていたのか。

(事務局) 転出入の手続きに加えて、アンケート調査にご協力をお願いしたため、丁寧に説明し、ご理解をいただいた上でご協力をいただいた。東洋繊維さんのご厚意でご提供いただいた機能性タオルをお礼として差し上げる工夫も行った。

(会 長) 転出入手続きなど忙しい中での協力依頼であるため、回答率があまり高くないものではないかと推察する。

(5) インターネット・アンケート調査結果報告について

(事務局) インターネット・アンケート調査結果報告の説明

(6) 市民ワークショップの実施結果(速報)について

(事務局) 市民ワークショップの実施結果(速報)の報告

(会長) これだけ丁寧に市民のご意見を多方面から集めたということは、あまり例がないと思う。

その分、膨大な資料となっているが、これらを踏まえ、いかに市民意見を基本構想や基本計画などに組み込んでいくか、が重要である。

4. 協議事項

(1) 津山市第5次総合計画基本構想骨子案について

(事務局) ○津山市第5次総合計画基本構想骨子案について説明

(会長) 手法としては、まず分析により、人口減少というショッキングな将来像を示した上で、丁寧に市民の意見を拾い集めてきた。

マクロの厳しい状況を踏まえて、事務局から、どうしていけばいいか、という基本構想案の骨子が示された。

岡山市は、LRTを活用したまちづくりに取り組もうとしており、先進地であるアメリカのポートランドに、関係者が視察に行った。ポートランドは「キープ・ポートランド・ウィアード」を標榜しており、「ウィアード」は「変な」という意味である。

○つまり、ポートランドは、変なまちでいい、独自性がある方がいい、ということ唱えている。

津山は元々「とま」という名前で、森忠政が「津山」という名前に変えたと聞いている。

森忠政の意向は、山の中にある、高瀬舟が往来する、非常に豊かなまち津山。津山とは、山の中の港、ということだと思う。

非常に厳しいマクロの予測データの中で、何をしていけばいいのか、忌憚のないご意見をいただきたい。

(委員) まず取り組むべき事は、非常に厳しい人口減少に対処するための、人口流出阻止だと考える。それを掲げるべきだ。

第4次総合計画の時には、合併に伴う高齢化が問題であり、自立や共助が重要ということになったのだと思う。

スローガンも耳障りはいいが、意味が分からない。

(委員) 私も全く同じ思いである。

前回の最後でも、そのようにまとめられた委員の発言があった。非常に重要な意見だったと感じている。

人口減少が今次の総合計画の課題であり、資料の提示もあったため、それを軸に進んでいくのだろうと考えていた。

目標人口を掲げているのは、今後、その目標達成のために何をするのかという論理で議論していくという意味で、評価する。

10年後に、課題が予想できていたのに何をしてきたのだ、と言われることがないようにしなければならない。

懇談会参加者のアンケートを見ても、97%が重点化を求めている。この結果は、市民の意思として重いものである。重点化は、重要な論点だと考える。

先般の市議会議員選挙でも、人口減少対策、重点化を掲げていた候補者が多かった。それは市民の意思がそこにあり、賛意が得られると考えたためだろう。

(会長) 民間であれば、売上が落ちると、厳しいリストラ案を作る。

行政はどの時点でそれをやるべきなのか。夕張のように破産状態になれば、やらざるを得ないのだろうが、津山市の場合、長期的に厳しい状況になることが見えている以上、そこに触れないわけにはいかないのではないか。

(委員) 何を目的にしているのか。

きれいごとでできるなら簡単に日本一のまちになれる。

子どもを増やすのが最も大事なことだ。

「人口減少を考える」など、一般的な人に伝わる、津山は変わっているんだな、と感じてもらえるような打ち出しが必要ではないか。

(事務局) 人口減少の打破が最大の課題であることは認識しており、きめ細かく市民意見を聴取する中で、人口減少、少子高齢化や経済の縮小にどう立ち向かうか、という視点で取り組んでいる。

一方で、総合計画は市の最上位の計画であり、人口減少対策だけでなく、人口減少の中でも社会が機能し、維持できるために、どのように市の姿や経営を変えていくか、ということも示していかなくて

はならない。

地方行政は、360度に向けた総合行政である。

○11万市民全てに光が当たる書きぶりをしている。

また、現在、人口減少対策に特化した「総合戦略」も策定しており、これは総合計画の下位計画として、また、最大の特色として、含まれているもの。

分かりにくいというご意見をいただいたので、工夫もしていきたい。

(委員) 「全ての市民」という言葉に関わる部分で気になるところがある。

○「市民の多様なニーズを把握し」とあるが、わがままなニーズでもいいと捉えられる可能性がある。

○「職員の政策形成能力の向上」とあるが、たかだか数百人の集団で11万市民を動かすという、内向きな考えなのか。私たちは、公共市民と呼んでいるが、一般市民であっても、政策形成能力や合意形成能力がなければ生きていけない時代に、この書き方は気になる。

○「家庭・地域の教育力の低下」とあるが、家庭や地域ではなく根幹として取り組むべき主体があるにも関わらず、明記されていない。

○「価値観の多様化を社会全体が受け入れ」とあるが、たとえ人口が半分になっても食っていける津山市でありたい。その時に、市民一人ひとりが、平等に情報を共有し、未来に向かうアクションプランを持とうという理念がないと、所詮行政が作ったもの、今までと何ら変わりのないものができるのではないか。

○市民全員でやろうよ、皆に責任があるよ、ということになれば、今までにないものになるのではないか。ただ、それが責任転嫁のようにとられると、行政の怠慢と捉えられかねないので、その辺のバランスは微妙だとは思う。

(委員) 基本つまり土台がしっかりしていれば、上部がどうであっても大丈夫。基本とは何かということをよく考えてやってほしい。

(委員) TPPについて、「厳しい状況になることが予想されます」と記述されているが、他人事のように言っても始まらない。

この地域ので、打開できる道筋を考えていかなければならない。

逆風の中でも、津山が持っている財産を活用して、はね返していけ

るような、農林業の付加価値を、どのように付けていくか。

泣き言ではなく、前を向いた、何らかの提言を出していかなければならない。他人事ではなく、我々がやっていくんだ、という総合計画でなければまずいのではないか。

(委員) 50年ぶりの同窓会で、帰省してきた同級生に、「銀座でもない、城下町でもない、妙なまちになった」「昔はしっかりと落ち着いたまちだった」と言われ、ショックだった。

離れたところから久しぶりに見ると、そのように見えるのだと思う。全国でどこでも同じまちである必要はない。津山らしい独自性のあるまちにしたらいいと思う。

(会長) 駅を降りて寂れた風景を見ると、涙が出るほどつらい。

きれいな美しいまちであってほしいと強く思う。

(委員) 人口減少を強調すると、不安や心配ばかりが先行し、夢も希望もない。当面の10年を考えるには、50年先を見据えるより、そういう視点も必要ではないか。

道州制など、地方行政の今後の変化も考えるべきだ。

吉井川を中心とした空間をどう作るかも重要。

○出雲街道の歴史や文化を踏まえれば、交流の拠点となるのでは。

津山城の復元に、長期的な市民運動として取り組むべきだと思う。

(委員) タイムスケジュールとして、修正は可能なのか。議論しても反映されないのであれば意味がない。

この内容では、40年前から言われていることと同じであり、また全国どこのまちでも同じことが言われている。

○それよりも、10年先の津山市はこうあるべきだ、ということ、多少偏っても、我々が議論したということが残せるかどうかだ。

(事務局) 次回、今日のご議論を踏まえて修正した基本構想案を諮問し、次々回に諮問案をご審議いただき、その次の回に最終決定していただくように予定している。

(会長) まだ修正できるということである。

(委員) 子どもを増やすこと、子どもの親の仕事を確保すること、そういう人たちが高齢者を大事にすること、に尽きる。

(事務局) ○当たり前のことが当たり前出来る行政は難しいのが現実。財政、人的な面、経済や情報のグローバル化などの外的要因など、様々な制約がある。

当たり前のことを美しい言葉で並べていると思われるかもしれないが、行動指針や目標に掲げざるを得ないのが地方行政である。

じっくり読んでいただき、次回までには、ご理解いただければありがたい。

基本構想の下に、柱を立てて、基本計画を策定していくが、その最も太い柱として、人口維持が出てくる。

○人口維持は、最も単純だが、簡単にはできないことであり、だからこそ国も自治体も苦しんでいる。

基本構想で、1つのことだけを前面に出すことはできないので、基本計画から実施計画の中では、選択し、集中し、優先させていく。そのための意見を多くいただいたので、参考にさせていただく。

(委員) 先日、京都で「当たり前」や「慣れ」が一番怖い、という法話を聞いてきた。

熊本の産婦人科で、患者が全国から来る例をテレビで紹介していた。当たり前のことをしていたのでは、そうはならない。当たり前のことをしていたのでは、当たり前のことにしかない。

(委員) 先ほどのお話は、一般的に市の政策としては普通のことなのかもしれないが、国が人口減少対策の大臣まで設けて取り組んでいることも明らかであり、都会だけの取り組みでは解決できない。

特に津山市は県北で大きな役割を果たしており、衰退してはまずい。自然も豊かであり、全国の人の役に立てるものを、必ず生み出すことができる。

今や、一般的なことを書いている状況ではなくなったと認識しているが、市としてはどういう認識なのか。

できることなら、殻を破ってやっていただきたい。

(事務局) ご指摘の点は強く認識している。

基本構想は目指す姿であり、政策を思い切って集中するとか、従前にはないやり方をする、異次元の改革をするのは、手法・手段である。

今、ご指摘いただいているのは目指す姿であり、地方は総合行政であるので、一部だけを強く書くというわけにはいかないのです、このようにさせていただいた。

危機感がないわけではないので、それは書きぶり等で工夫したい。

(委員) 失礼ながら言い逃れにしか聞こえない。

ここに集まっている理由は、人口構造が変化して人口減少する中で、どうやって津山市がやっていけるのか、を考えるため。

会社をやっていても、若い人が入ってこない。高齢者ばかりになると、生産性は落ちる。農業でも、高齢者が多い。車には乗れるが、100mも歩けないお年寄りが、農業しているのはいけない。年寄りばかりの世の中になってしまうことを考えると、言い逃れして、市民に丸投げしているとしか見えない。

市民に丸投げされても困る。若い世代、働き盛り世代を増やし、人口構造を変える努力、方策が必要であり、それを理念の中にも書き込むべきだ。

(委員) 竹下内閣の折に全国一律に1億円を配る事業があったが、創意工夫で活かしたところは少ない。

(委員) これまでの発言には、基本計画に関する発言も多いのではないかと。基本構想は、どういう方針で振興を図るかという見出しであり、案に書かれた表現で十分だと考える。

(会長) 私は皆さんよりも若干早めに資料をいただき、以降ずっと、夜も寝ないで一生懸命考えてきた。

○簡単に素晴らしいアイデアが出てくることはないと思う。

○しかし、今日の議論を聞いていると、方向としては、もう少し踏み込んでほしい、ということが1点。

2番目に、人口減少を踏まえたものにしてほしい、という強い希望がある。

○ぜひ、この2点は組み入れていただきたい。

ここに示されている基本理念は、推進手法、すなわちどうやってやるか、であって、これが基本理念ということはありません。大綱の推進手法の1番目を全く同じである。基本理念はそういうものでは

ない。

基本理念は、津山創生など、津山という文字を明確に入れて、どうやって創生するか、をテーマにすべき。

目指すまちの姿も、どこのまちでもいいものになっていて、望ましくない。これから10年間、市民の方々に話すのであれば、津山らしいもの、例えば、美しい文化都市津山、といったものなど、津山という言葉をぜひ入れていただきたい。

まず、基本理念や目指すまちの姿を見直した上で、それに基づいて、まちづくりの推進手法を修正いただき、大綱、基本計画に持っていただきたい。

これだけのデータをいただき、市民の意見も、わがままを言わず、未来の津山を作ってください、というのが大多数だと感じている。

○それを活かした基本構想や基本計画にすべきだ。

大多数の委員の意見はそういうことだったと思う。

○現実に形にするためには、市議会を通すなど、こちらではできないこともあるのだろうとは理解している。

できれば、修正したものを、事前に委員に配布して、意見をまとめて審議会に臨めるようにしていただきたい。

(委員) 市議会を通すために基本構想を作るのではない。

審議会は率直に意見を出し、市議会はそれを必要ならば整えていくのが仕事だ。

5. その他

(1) 今後のスケジュールについて

(事務局) ○今後のスケジュールについて説明

(委員) このスケジュールでは参加できない。

(会長) 何らかの方法で意見聴取をお願いする。

6. 閉 会